

戦争の必然性についての物語を変える必要

ユーリイ・シェリアジェンコ（ウクライナ平和主義運動代表）

プレゼンツァ 2024年8月24日

[Yurii Sheliuzenko: "We must change the narrative of the inevitability of war." \(presenza.com\)](https://www.presenza.com)



インタビューしたイタリア人教師マウロ・カルロ・ザニーラ氏の前文（省略）

（質問）あなたは、2022年10月2日の国際非暴力デーに、キエフ大学植物公園のマハトマ・ガンジー像の下で「ウクライナと世界のための平和アジェンダ」という声明を公に読み上げました。そのことで「ロシアの侵略を正当化している」と非難されていますが、この非難にどう答えますか？

これは私や私が率いる組織、「ウクライナ平和主義運動」が平和と人権、特に良心的兵役拒否権を訴えていることをやめさせるためのとんでもない口実で

す。「平和アジェンダ」はロシアの侵略を正当化するものではありません。実際、侵略を非難した2022年3月2日の国連総会決議を支持し、プーチンが本格的な征服戦争へと発展させたロシアとウクライナの紛争の平和的解決を呼びかけています。

「平和アジェンダ」の声明は広く流布され、ゼレンスキー大統領に送られましたが、これが迫害の口実になりました。しかし、事件簿によれば、ウクライナの保安局は「平和アジェンダ」のずっと前から私を追っていました。私が2022年3月、良心的兵役拒否の権利を認め、拒否者の海外渡航を認めるようウクライナ国会人権委員会に請願したときから、彼らは調査を開始していたのです。オンブズマン事務局の職員が保安庁(SSU)に通報したのです。私は何度も苦情を申し立てましたが、オンブズマンのルビネッツはその非を認めませんでした。しかし、少なくとも彼は年次報告書の中で、(兵役に代わる)仕事を用意しないのは、兵役拒否の宗教的信条を持つ憲法上の権利を侵害すると述べています。

現在の戦況をどのように見えていますか？

ロシアの侵略戦争は消耗戦に変わりました。これを好きだという人はだれもいませんが、侵略者も被害者も両方やめたくないのです。ロシアとウクライナは、ある程度の自制と計算された勢いをもてば、勝利にむかって流血を続けることができます。敵が降伏するという単純な平和の見通しは現実的ではありません。双方とも国際的な後ろ盾を含む相当な経済基盤を持っているからです。ウクライナは多くの国の協力を得て、より真剣で現実的な平和のビジョンを描こうとしている。しかし同時に、たとえ明確な道がなくても、前進したいという切実な願いももっています。私たちは戦争にうんざりしており、私は非暴力で戦争を終わらせたいと思っていますが、ただ多くの人々はそのような可能性を考えようとしていません。

いずれにせよ、ウクライナはいかなる帝国の一部にもならないでしょう。この戦争は、クレムリンをはじめとするあらゆる帝国主義者たちに、21世紀に帝国を建設するのはコストがかかりすぎ、危険すぎるということを教えたはずで、彼らは銃を捨てて、認識した方がいいです。ウクライナ人のような自由な

人々を武力で征服することはできず、愛と真実の偉大な力のみが世界を支配し、人類を平和的に団結させることができるということを。

いまの困難な状況で、何があなたに前進する力を与えているのでしょうか？

まず第一は、人間とは本来理性的なものであり、どんな戯言も、たとえ痛みを伴うものであっても、適切な議論と反省を経れば遅かれ早かれ終わるといふ、知識と人生経験に基づく希望です。第二に、それは友人であり、誰の中にもいる神の存在に答えながら、世界中を明るく歩こうと呼びかける信仰です。

イタリアや他の国で応援している人たちに、どのようなことを広めることができると言いたいですか？

連帯と支援に感謝したいです。出版物や嘆願書などあらゆることを通じて、平和運動を迫害する人たちに世界はみているぞということを示しているからです。そういう深い感謝の気持ちとは別に、私は、昔ながらの固定観念や政治的スローガンではなく、常に希望をもち、想像力によって行動してほしいという呼びかけをお伝えしたいと思います。

私たち平和活動家のことをわかってもらわなければなりません。私たちは、本当は誰をも傷つけることのない生産的な理想主義者であり、世界をより良くしようと積極的に行動する正当な夢想家であり、愚かな行動や言葉によって世界を悪くするものではありません。誰とでも通じ合うことができます。しかし注意も必要です。私たちは、平和提案にみせかけた不当な降伏要求や、「反ファシズム」やその他「反権威主義」を装って「敵」への憎悪や非人間性をあおる有害な考えを受け入れたり、押し付けたりしないようにしなければなりません。不当な固定観念や権力構造にとらわれない非暴力的な行動とコミュニケーションの模範を示す必要があるのです。私たちはみんなが、80億の家族のメンバーの間で、そして人間と自然の間で、非暴力的な統治と調和を求め、共通の惑星の全人類的な存在になっていく必要があります。どんな戦争もせず、闇を受け入れず、より良い未来に向かって光の海を航海していきましょう。

戦争と降伏の間には第3の選択肢があると思いますが、あなたはどのように思いますか？

同感です。国連や一部の市民団体を除けば、暴力に対する非暴力抵抗や非武装の民間人保護を行う機関が本当に少なく、知識や人材、資源が不足しているのは残念なことです。非暴力抵抗は、私がここウクライナで始めた平和主義の学校「自由市民」のカリキュラムの一部になっています。良心的兵役拒否を主張してロシアの侵略に非暴力で抵抗することを呼びかけているので、人々が抵抗する方法を見つけると、私はとてもうれしいです。

その一例が、最高裁判所によって釈放された元良心囚のヴィタリイ・アレクセイエンコ氏です。彼は再び執行猶予付きの判決を受けましたが、最高裁判所で検察官が実刑を求刑する新たな裁判が開かれるのを待っています。ヴィタリイ氏は一審と控訴審の裁判で、キリスト教徒として殺人を犯さずに侵略に抵抗する方法を見つけたと述べました。プーチンは私たちに分裂させようとしていますが、彼は郵便配達人になって、手紙や小包、年金の配達をしてウクライナの人々の団結を保っています。彼は平和的な仕事で郵便通信を支え、平和と社会的結束の文化の一部を担っているのです。彼の心配はウクライナの民間人の保護です。より多くの人々が彼のように殺人よりも平和的な仕事を好むようになれば、誰も兵士になりたがらなくなり、軍隊は征服され、戦争はなくなるでしょう。良心の内なる声は、誰もが殺人を拒否し、戦争のない世界へと私たちを導いていきます。

戦争以来、ウクライナの社会はどのように変わったのか。

ウクライナ社会はロシアによる侵略の後、深刻なトラウマを抱えるようになり、このことが民衆の精神面に多くの暗い影を呼び覚ましています。自由と民主主義への愛、ウクライナ人の自然なヒューマニズムはある程度保たれていますが、こうした平和文化の価値はもろく、国内外の軍国主義からの圧力は圧倒的です。暴力が問題を解決し、暴力に対する最善の対応はさらなる暴力であるという古風な妄想が蔓延しています。権力、貪欲、残酷、憎悪の誘惑が多く人の心を蝕んでいます。しかし、平和主義とは縁遠い人々の間でも、侵略国家と同じになってはならないという冷静な理解は広がっています。この国が

武装した奴隷の血と土による専制的な軍事国家になってしまえば、「ウクライナの勝利」にはなりません。社会は追い詰められ、死角から抜け出した、なんとかして抜け出せないかと感じています。ロシアの侵略を尊厳と正義をもって終わらせる方法について、私たちはまだ実現が可能なビジョンを持っていないのかもしれませんが。しかし私たちはそれを追求しています。あちこちの「現実主義者」たちによって何度も予言された、終わりのない戦争よりも良いものを求めているのです。

ウクライナ国内で、ウクライナ語を話す住民とロシア語を話す住民の兄弟関係を再構築することは可能でしょうか？

「クレムリンの兄」が「ウクライナの弟」を支配するのではなく、全人類的な兄弟愛を語っていけば、遅かれ早かれそうなるに違いありません。しかし、平和の確保には正義の回復が必要です。ロシアはウクライナから軍を撤退させ、我々が被ったすべての殺戮と破壊の損害を賠償しなければなりません。おそらく、多くのロシア人にとっては、それほど直接的ではなく、それほど議論がない解決策があるのでしょうか、現在のところ、それが何であるかは言えません。私たちは和解のための解決策、憎しみ、痛み、疎外の壁を少しずつ取り除いていく、段階的で賢明な解決策を模索する必要があります。

ロシア帝国主義だけでなく、ウクライナのナショナリズムも平和の障害になっていることは認めます。しかし、ウクライナ人が「ファシスト」であるというのは偽りであり、プーチンがそのような戦争の「正当化」を世界が信じると本気で思うはずがありません。特に、彼はウクライナ人をロシア人と一つの民族にしたいという野心を表明しているため、ウクライナの独立を望むものはすべて「ファシスト」だと考えているのでしょうか。実は、人々は生涯を通じて多くのものを収集し、そのなかで共通のコレクションが人々の遺産となります。戦争は人々に憎しみと恐怖と悪意を集めさせます。そのなかでも軍国主義は、人々が集めうる最悪のものです。ですから人民は、自分たちが起こした、あるいは起こすと予想される戦争によってこういう性格だと判断されるべきではありません。そうではなく、集団的な想像力、知識、芸術、団結の喜びと幸福、そしてこの素晴らしく善良な宇宙の誰であろうと何であろうと受け入れる寛容さによって、特徴を定義しなければなりません。闇の中ではなく光の中を歩む

とき、私たちは兄弟姉妹となり、平等で、破壊的ではなく創造的な存在となります。そのためには、偉大な啓蒙活動がなされなければなりません。

ヨーロッパ諸国民は停戦を強制するために何をすべきか？

"強制"という言葉は興味深いです。それは平和的な強制という意味であってほしいと思います。平和的な取り組みがなければ、あるいは現在のように平和的な取り組みが弱ければ、プーチンは攻撃を続けるでしょう。ゼレンスキーは反撃を続けるだろうし、彼らには支持者がいます。それを止めるためには、ロシアの侵略の誤りだけでなく、あらゆる戦争や暴力が原則的に誤りであること、平和的解決策を検討し実行する必要性について、真実を伝えなければなりません。戦争の必然性についての物語を変えなければならないのです。侵略国家の行動を変え、正義を回復し、補償と、少なくともすべての過ちが起こした苦痛の軽減を確保するための非暴力的な方法を見つける必要があります。これは、多くの人々の関与、多くの資源、研究、教育、対話の努力を必要とする大きな仕事です。

また、平和運動を戦争遂行のために利用しようとする動きへの抵抗も必要でしょう。かつてクレムリンが平和活動家の信用を失墜させるようなことをしたのは本当に非道なことです。また、軍国主義的な考え方や疑い、攻撃に対する抵抗も必要です。ですから、私たちは平和のために働き、弾力的になる必要があります。基本的なことは、殺人を拒否する権利を守り、誰もが殺人を拒否することですべての戦争が終結する世界のビジョンを普及させることです。そして、このビジョンに従って希望に満ちた人生を送った人々の物語や、軍国主義のあらゆる挑戦に対抗した彼らの対応、非暴力抵抗の成功体験を広く知らしめることです。(了)

【翻訳 田中靖宏】